女子　中　高

東京都杉並区

立教女学院小学校

［理事長］大澤　眞木子
［校　長］児玉　純

〒168-8616　東京都杉並区久我山 4-29-60　TEL 03-3334-5102(代)　https://es.rikkyojogakuin.ac.jp/
【交通】京王井の頭線三鷹台駅

光と風と緑の中の校舎で、のびのび始まる学校生活

▼　▼　▼

教育方針

キリスト教に基づき、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性の人格の基礎をつくること。

教育目標

（1）いきいきと生活する子

子どもには神様から与えられた賜物があり、あらゆる可能性を秘めています。ありのままの自分を愛し、個性を輝かせ、健やかに歩む子どもを育てます。

（2）すすんで行動する子

大丈夫という安心感があれば、子どもたちは様々なことにチャレンジできます。自ら学び、よく考えて行動できる子、さらに、まわりの人を応援できる子どもを育てます。

（3）まわりの人を大切にする子

まわりの人への思いやりを持ち、共感できる心をもつことが大切です。人のために自分の力を惜しみなく発揮できる子どもを育てます。

「学びたい」「学ばせたい」「教えたい」に応える教育環境

グローバル教育●英語の授業はネイティブを含む教員4名による少人数クラス編成。ICT環境も利用し、目にも耳にも楽しく英語を学んでいます。英語という言語を通して異文化を知り、他者を理解する教育を行っています。

ICT教育●子どもたちが主体的に学ぶためのツールとして、様々な授業でiPadを活用しています。3、4年生でリテラシーや基礎的な知識・技能を学び、撮影や調べ学習はもちろん、学習した内容を個人でスライドにまとめたり、仲間と協力して動画やプレゼンテーションを制作したりと、幅広い活動を行います。自分の考えを深めて相手に伝えるスキルを身につけ、デジタルツールを効果的に用いて問題解決に取り組む、協働的な学びへと発展します。また、3年生以上は1人1台iPadを購入していただいています。

体験型学習●伝統的な軽井沢キャンプに加え、農業、漁業、林業などを学ぶスタディツアーといった宿泊を伴う多様なプログラムを学年ごとに実施。自然や生き物に直接触れるとともに、地元の方々との交流を通して、自然環境や農業、復興支援について児童一人ひとりが自ら考え、「いのち」の大切さを共に学び合う機会を設けています。

上級学校に進むには

卒業生（希望者）は、本学院中学校・高等学校へ進学し、一貫教育を受けることができます。また、一定の要件を満たす者は立教大学に推薦入学することができます（2024年高校3年生より、受入枠数204名）。

創立者ウィリアムズ師

立教女学院はアメリカ聖公会から日本に派遣されて来た、宣教師ウィリアムズ師によって創立されました。彼は日本の人々がイエス・キリストにあらわれた神の心を知り、真の人生を生きるためにどんなことでもしようと決意していました。その決意の一つに、女子に対する教育がありました。人間がすべて神の前では等しい意味と価値を持っているのだということを、女子教育を始めることにより証したのです。彼は全生涯を日本の宣教と教育に献げ“道を伝えて己を伝えず”と称賛されるほどのまれにみる高徳の師でした。同師の信仰と生き方は本学院の伝統の中に今日も脈々と生き続けています。

沿　革

1877年、Bishop Channing M.Williamsにより、立教女学院が創設される。1908年、文部大臣の認可を受けて高等女学校となる。関東大震災により校舎が焼失したが、1930年に現在の高等学校校舎が完成。その翌年小学校が併設された。2002年、新校舎完成。

2025年度募集要項［前年度］

募集人員：女子72人
出願期間：
「Web」および「郵送」両方の出願が必要となります。
Web出願期間：
9月2日～10月2日
郵送出願：
10月1日～10月3日必着
※簡易書留郵便に限ります
※窓口での出願は受け付けません
入学試験日：11月4日
合格発表：11月5日

【かかる費用】
入学金：300,000円
藤の会（保護者の会）入会金：10,000円（4月入学後）
(1) 学　費（月額）
・授業料　54,000円
・教育充実費　15,000円
(2) 校納金（月額）
・藤の会費　1,500円
・給食費　10,100円

併設中学進学状況

◆立教女学院中学校
※原則として希望者全員が進学可能

データパック

◆児童数434人／教員数23人
◆25年度応募者数：女子524人
◆合格者数：—

【併設校】
○立教女学院中学校・高等学校